

第 1 章 文型	1
第 2 章 文の種類	3
第 3 章 基本時制	4
第 4 章 完了形	5
第 5 章 助動詞	6
第 6 章 受動態	7
第 7 章 不定詞	8
第 8 章 動名詞	10
第 9 章 分詞	11
第 10 章 使役動詞・知覚動詞	12
第 11 章 分詞構文	13
第 12 章 関係代名詞	14
第 13 章 関係副詞	17
第 14 章 比較	19
第 15 章 仮定法	20
第 16 章 接続詞	21
第 17 章 句と節	24
第 18 章 話法	25
第 19 章 名詞、冠詞	27
第 20 章 代名詞	28
第 21 章 形容詞、副詞	31
第 22 章 強調、否定	32
第 23 章 前置詞	33

第 24 章 発音とアクセント	36
参考	39

第1章 文型

第2文型

主語 動詞 補語
Its goals are to bring clean water to developing countries and to educate young people about the need for clean water.

長い文章ですが、構造はとても単純です。まず文章全体の構造を把握しましょう。この文章は「S → V → C」（主語→動詞→補語）の第二文型です。

次に「補語」の構造を把握しましょう。

不定詞1 等位接続詞 不定詞2
to bring clean water to developing countries and to educate young people about the need for clean water.

つまり、「Its goals = 1. to bring ～ and 2. to educate ～」

この構造を把握するために、等位接続詞「and」とは何かを理解しておきましょう。

「等位接続詞」とは、その接続詞の前と後ろにあるものが等しいという意味です。この文章で「and」の前と後ろにあるもので「等位」を探すと、ここでは「不定詞」が該当します。ここまで分かったら、不定詞以降を訳して、それらを「and」で結べばOKです。ただここでまた一つ注意が必要です。

前置詞
「to bring clean water to developing countries」

“developing countries”の前の「to」は前置詞です。つまり、「発展途上国にきれいな水を運ぶこと」と「方向」を表している「to」です。

第4文型

主語 動詞 目的語1 目的語2
Both bridges showed Miyake the joy of expressing ideas through design.

主語 動詞 目的語1 目的語2
He tried to bring people beauty and joy through making clothes.

主語 動詞 目的語1 目的語2
The examples of Oman and Dresden give us points to consider.

第4文型は「主語 - 動詞 - 目的語1 - 目的語2」です。

この場合、目的語1に「人」、目的語2に「物」がきます。訳は「人」に「物」を「～する」とします。簡単な例文は以下のとおりです。

主語 動詞 目的語1 目的語2
Sakura showed me her picture. (サクラは私に彼女の写真を見せました。)

Outside the ghetto, ^{主語}Irena ^{動詞}gave ^{目的語 1}the children ^{目的語 2}false name and left them in Polish homes or orphanages.

第3文型と第4文型

「AにBを～する」という意味を表すには、例えば「I explained it to him. (私は彼にそれを説明した。)」のように、第3文型に「to A」を付け加えれば良いのですが、目的語1(～に)と目的語2(～を)という2つの目的語をこの順で並べて表すこともできます。これが「主語 + 動詞 + 目的語1 + 目的語2」の第4文型です。

「～に」という意味は、「to」の他に「for」でも表す場合があるので、第4文型を取れる動詞を、これに従って2つのタイプに分けることができます。

1. 目的語の順を入れ替える時「to」を取る主な動詞

give, hand, lend, offer, pass, pay, promise, send, show, teach, tell, write

例文) 私はジャックに名刺を渡した。

^{目的語 1}I gave ^{目的語 2}Jack my business card.

^{目的語 2}I gave my business card ^{目的語 1}to Jack.

2. 目的語の順を入れ替える時に「for」を取る主な動詞

buy, call, cook, find, get, make, prepare, save

例文) 彼女はお母さんに花を買ってあげた。

^{目的語 1}She bought her mother ^{目的語 2}some flowers.

^{目的語 2}She bought some flowers ^{目的語 2}for her mother.

第2章 文の種類

We need to think about how we can live in peace and harmony with nature on one planet.
文法) 間接疑問文 疑問文を文の一部として用いることです。語順が平叙文と同じになります。

1. We need to think about.

2. How can we live in peace and harmony with nature on one planet?

1. + 2. = We need to think about 疑問詞 + 主語 + 動詞 how we can live in peace and harmony with nature on one planet.

第3章 基本時制

Do you ^{状態動詞}know the number of countries in the world?

Each person ^{状態動詞}belongs to a country and a society.

状態動詞

「know」は「～を知っている」、「belong to～」で「～に所属している」という意味で、これは、過去から現在を経て未来まで続いていく気持ちを説明しています。このように同じ状態が続くことを説明する動詞を「状態動詞」といいます。「状態動詞」は特に必要が無い限り進行形にしません。

He thought that design had to be future-oriented.

時制の一致

従属節の動詞が主節の動詞の時制との関係で決まることをいいます。ここでは「thought」と「design had to be future-oriented」は過去の同じ時点のことを表しています。

第4章 完了形

It has brought about the fusion of Eastern and Western cultures.

文法) 現在完了形 ここでは「完了・結果」の意味で使われています。

Miyake ^{過去形}became a designer perhaps because he ^{過去完了形}had experienced those two things.

過去完了形 (大過去) ^{だいかこ}2つの出来事の時間的な前後関係を表す過去完了形

過去に起こった2つの出来事について、時間的に前に起こった出来事(より古い出来事)を過去完了形にします。ここではデザイナーになったことより以前に2つのことを経験しているという時間差を表しています。

Since the 1970s, people have been cutting down the trees to get money and make land for growing food.

現在完了進行形 <have/has been + ~ing>

現在完了進行形「(今まで) ずっと～し続けている」

「動作が進行中」ということに注目する表現です。「今もその動作が進行中」であることももちろんありますが、「動作が進行中であつた」場合にも使われます。つまり、継続していた動作自体は終わったものの、その動作の「余韻」が今でも色濃く残っているときにも使われます。たいていの場合、動作が終了したのは少し前のことです。

But miraculously, it still exists as a wall painting in a monastery in Milan, Italy, though it has been repaired many times.

過去完了形 + 受動態「ずっと～されてきた」

「have/has/had + been + 過去分詞」の形になります。「ずっと～されてきた」という意味です。

第5章 助動詞

You can be a creator of such new culture, too.

助動詞「can」

「～することができる」という意味で、「be able to do」を用いることができます。

Some farmers think the animals which enter their plantations are harmful because they can damage palm trees and their land.

助動詞「can」可能性を表す意味です。「～はありうる」と訳します。

例文) Anybody can make mistakes. 「だれだって間違いはあり得る。」

Can his story be true? 「彼の話が真実なんて、あり得るだろうか？」

As you look down on the island from the plane, you may think that a great natural forest covers the island.

You might not realize it, but our daily lives make these plantations necessary.

助動詞「may」と「might」「推量」を表す意味です。「～かもしれない」と訳します。

「may」と「might」は基本的には同じ意味です。「might」の方が「may」よりもやや可能性が低いことを表すことができます。

So Dr. Pearson thought that there should be another avenue leading from Durrington Walls to the Avon.

助動詞「should」可能性・推量を表す意味です。「～のはずだ／きっと～だ」と訳します。

Later they would be sent to concentration camps and killed.

助動詞「will/would」習慣を表す意味です。「よく～する/したものだった」と訳します。

Then the girls began to search for Irena's final resting place because they believed that she must be dead.

助動詞「must」確信を表す意味です。「～に違いない」と訳します。

It must have been an emotional moment.

助動詞 + have + 過去分詞

「must have + 過去分詞」過去のことにに関して確信していることを表す意味です。「～したに違いない、～だったに違いない」と訳します。

第 6 章 受動態

No essential difference can be found between clothes in the East and those in the West.

助動詞を伴う受動態 能動態と同じように、受動態でも助動詞を用いることがあります。

第7章 不定詞

不定詞とは？

「to + 動詞の原形」を不定詞と言います。「to」は「I go to school.」の「to」と同じように、「方向や目的」を表す意味がありますが、それと動詞を一緒に使うことにより「不定詞」という使われ方をするようになりました。そのため「指し示すイメージ」があり、また「未来を志向している」という性質が含まれています。「不定詞」には、「名詞的用法」「形容詞的用法」「副詞的用法」の3つがありますが、古い英語ではそれぞれの用法によって語尾変化があったのですが、徐々に統一・吸収されたために、一つの形「to + 動詞の原形」だけで、これら3つの意味を表すことになりました。「不定詞」という名前は、「主語の人称や数の制限を受けない」という意味に由来しています。

He learned how to place picture elements and how to use colors from the Japanese prints.

名詞的用法

不定詞を中心とした語句が名詞の働きをして、補語や主語、目的語になることをいいます。

What can we do to help them?

副詞的用法

不定詞が名詞以外の語句や文を修飾することをいいます。

One day, Ms. Prest said that in Africa, people were dying because they didn't have clean water to drink.

形容詞的用法

不定詞が直前の名詞を修飾することをいいます。

He learned how to place picture elements and how to use colors from the Japanese prints.

how to 「疑問詞 + to 不定詞」

不定詞の直前に疑問詞を置いた「疑問詞 + to 不定詞」は、動詞の目的語として使われることが多いです。「how to 不定詞」は「～のやり方、方法」と訳しますが、本来は「どうやって(how)～するのか(to do)」という意味です。

「疑問詞 + to 不定詞」の例文を以下に示します。

I don't know what to do next. (私は次に何をすればいいのか分かりません。)

Do you know where to buy the tickets? (チケットをどこで買えばいいか知っていますか?)

Ask your teacher when to start. (いつ出発すればいいのか、先生に尋ねなさい。)

The government of Oman had stopped developing new oilfields in the sanctuary from 2000 to 2005.

文法) 「stop + ing」と「stop + to 不定詞」

stop は現在分詞と不定詞の両方を伴うことが出来ますが、現在分詞か不定詞かによって、stop 自体の意味が変わってしまいます。例文を使って説明します。

(1) He stopped smoking. 「彼はタバコを吸うのをやめた。(禁煙した。)」

(2) He stopped to smoke. 「彼はタバコを吸うために立ち止まった。(止まってタバコを吸った。)」

動詞の後ろが「現在分詞」の場合、「すでに起こった事柄」を表し、「不定詞」の場合、「まだ起こっていない事柄」を表します。ここで改めて例文を見て下さい。(1)の場合、「stop」する前に「smoking」はしていたということです。(2)の場合、「stop」した後に「to smoke」するということです。同じような動詞に、forget, remember, regret, try 等があります。テキスト内にこれらの動詞が出てきた時に、改めて説明します。

She helped older ones escape through secret openings in the wall.

文法) help + 目的語 + 原型不定詞/to 不定詞

She 動詞 helped 目的語 older ones 原型不定詞 escape through secret openings in the wall.

「知覚動詞」や「使役動詞」が「原型不定詞を伴う」というルールがありますが、「help」は「原型不定詞と to 不定詞の両方を伴うことができる」という動詞です。意味はどちらも変わりません。試験では「原型不定詞」が置かれる文が多く使われます。その時に「これはhelpに原型不定詞が伴っている形だ。」ということを見落とさないで下さい。

第 8 章 動名詞

From then on, he continued to show his works in Paris every season.

文法) 目的語が動名詞でも不定詞でもよい他動詞

begin, cease, continue, hate, intend, like, love, neglect, start

※ 1 目的語が動名詞になる他動詞

admit, avoid, consider, deny, enjoy, escape, finish, imagine, mind, miss,
practice, quit, suggest, give up, put off

※ 2 目的語が不定詞になる他動詞

care, decide, desire, expect, hope, manage, mean, offer, pretend, promise,
refuse, want, wish

※ 3 目的語が動名詞か不定詞かで意味が異なる他動詞

forget, remember, regret, try, stop

第9章 分詞

This development is leading to the loss of many ^{修飾される語 前の語を修飾}species found only on Borneo.

分詞の形容詞用法

分詞の中には動詞としての性質が薄れ、形容詞として使われている物があります。現在分詞形は動詞の「ing」形が、過去分詞形は動詞の「過去分詞」が使われます。現在分詞は能動の意味を持ち、過去分詞形は受動の意味を持ちます。

For example, in 2006, ^{修飾される語 前の語を修飾}an NPO called the Borneo Conservation Trust (BCT) was founded to ensure their survival.

It will be a continuous area of ^{後ろの語を修飾 修飾される語}protected rain forest along the major rivers.

分詞の形容詞用法 過去分詞は受動に意味になります。修飾される語が分詞の前後どちらかに置かれます。

They also set up ^{修飾される語 修飾する語}cameras watching orangutans.

分詞の形容詞用法 現在分詞は能動の意味になります。修飾される語が分詞の前後どちらかに置かれます。

Irena couldn't sit watching the fate of the Jewish people.

文法) 主語 + 動詞 + 補語 (分詞)

「5 文型」で「主語 + 動詞 + 補語」と分類されるのは、「主語 + be 動詞 + 補語」で、「be 動詞」は「=」の役割をします。つまり「主語 = 補語」となります。しかしここでは、動詞は「一般動詞」となり、補語に「分詞」がくることがあるということを示しています。

この文章では「sit」が使われていますが、他に「walk」「come」「stand」等の自動詞が分詞を伴うことがあります。「現在分詞」の場合は「～しながら」、「過去分詞」の場合は「～されて」と訳します。

第 10 章 使役動詞・知覚動詞

They ^{知覚動詞}saw the portions in the main meal ^{原形不定詞}grow by about 69%, the bread by about 23%, and the plates by about 66% in 1000 years.

see、hear、feel のような知覚を表す動詞は、目的語の後に動詞の原形を置いて、「目的語が～するのを見る、聞く、感じる」という意味を表します。この場合、目的語の行為を初めから終わりまで見る、聞く、感じる、という意味になります。

He said to his seven-year-old daughter, "If you ^{知覚動詞}see someone ^{補語 (分詞)}drowning, you must try to rescue them, even if you cannot swim."

主語 + 知覚動詞 + 目的語 + 補語 (分詞)

補語の場所に「現在分詞 (動名詞)」が来ると、「目的語が～しているのを見る」という意味になります。また、「過去分詞」が来ると、「目的語が～されているのを見る」という意味になります。

※ 「see + 目的語 + 原形不定詞」と 「see + 目的語 + 現在分詞」の意味の違いに注意しましょう。

1. I saw a duck cross the street. 「私はカモが通りを横切るのを見ました。」

2. I saw a duck crossing the street. 「私はカモが通りを横切っているのを見ました。」

原形不定詞の場合は、その動作が始まってから終わるまでの全てを見たり聞いたりすることを表し、現在分詞の場合は、その動作の一時点を見たり聞いたりすることを表します。

It was difficult for her to ^{目的語}get ^{過去分詞}the children past Nazi guards.

get + 目的語 + 過去分詞 「目的語を～してもらう」「目的語を～される」という意味を表します。

第 11 章 分詞構文

Researchers keep on studying them, trying to make new discoveries.

分詞構文を説明することはとても難しいです。簡単に説明すると、「接続詞が使われている文章を分詞を使って簡略化したもの」です。つまり、今まで使ってきた「接続詞」を省略してしまいます。従って、分詞構文の文章を読み取るには、適切な接続詞を文脈から考える必要があります。実際に文章を見ていきましょう。

There they waited for the sunrise, remembering their ancestors.

とりあえず何も考えずに訳してみましょう。

「そこで彼らは日の出を待っていました。彼らの先祖を思い出している。」

訳文から適切な接続詞を考えてみると、「～しながら」、「～している時」くらいが思い浮かぶと思います。つまり「while」か「when」くらいがここでは適当でしょう。そこで以下のような英文にしてみます。

There they waited for the sunrise while they were remembering their ancestors.

「彼らは自分たちの先祖を思い出しながら、そこで日の出を待っていました。」

この文章から接続詞と同時に、主節と従属節の主語が同じなので、それらを省略したのが最初の文章です。

There they waited for the sunrise ^{省略} while they were remembering their ancestors.

第 12 章 関係代名詞

文中の名詞を形容詞節で修飾するには、その名詞に代わる代名詞と接続詞の働きを兼ねる関係代名詞を使います。例文を使って説明します。

「男の人が私たちの方へやってきます。」と「彼を知っていますか？」という 2 つの文を 1 つの英文にまとめるのに、関係代名詞(who)を次のように使うことができます。

A man is coming toward us. Do you know him?

→ *Do you know the man who is coming toward us?*

(私たちの方へやってくるあの男の人を知っていますか?)

この場合、who は下線部の節の主語であると同時に、この節を前の名詞「man」に結びつけて修飾しています。つまり「who」は「man」という名詞の代わりをしながら、2 つの節を結びつけて修飾しています。つまり「who」は「man」という名詞の代わりをしながら、2 つ節を結びつけている接続詞の役割も果たしています。これが関係代名詞です。先行詞が「the man」と定冠詞になっているのは、「やってくるあの男」と限定されているからです。

関係代名詞の種類と格変化は以下のとおりです。

先行詞	主格	所有格	目的格
人	who	whose	whom [who]
もの・動物	which	whose	which
人・もの・動物	that	×	that
先行詞がない (先行詞が含まれる)	what	×	what

There are ^{先行詞}many foods and industrial mate ^{関係代名詞}which have palm oil as an ingredient.

主格

関係詞節中の動詞に対して関係代名詞が主語として働く場合、主格の関係代名詞が使われます。

Among them, there are ^{先行詞}some influential people ^{関係代名詞}whose ^{名詞}work is recognized worldwide.

所有格

関係代名詞の所有格は「whose」しか存在しません。よって、先行詞に関係なく、関係代名詞の後ろに名詞があれば所有格になります。

関係代名詞
For whom and for what do the World Heritage Sites exist?

目的格

ここでは「Who do the World Heritage Sites exist for?」（世界遺産は誰のために存在するのでしょうか？）を改まった言い方（文語的）にしています。

Borneo, an island which is far away from Japan, is greatly affected by what we do in our daily lives.

関係代名詞
In this way, they analyzed 52 paintings of what they call "

先行詞 関係代名詞
history's most famous dinner party" that were drawn between the years 1000 and 2000.

what 「～すること（もの）」という意味を表し、先行詞なしで使います。先行詞が含まれると言われる場合がありますが、その場合は「the thing(s) that[which]（～するところのもの）」と考えます。「what」が導く節は「名詞節」になり、文中では、主語・目的語・補語になります。

One of those mysteries is Stonehenge, which was built in southern England some 4,500 years ago.

関係詞の制限用法と非制限用法

(1)制限用法

文中の名詞・代名詞を説明するために、その直後に関係代名詞を置いて節を作り、後ろから限定修飾する用法を「制限（限定）用法」と言います。

制限用法の先行詞は本来「不特定の人や事物」で、関係代名詞の導く節に限定修飾されて初めて、特定の人や事物を指すのが普通です。

先行詞 関係代名詞
例文) I have a friend who lives in London. 「私はロンドンに住んでいる友達がいます。」

みなさんには複数人の友達がいますと思いますが、便宜上ここでは 20 人友達がいるという設定にします。

この時点で先行詞の「a friend」は 20 人いる友達のうちの 1 人ですが、その 1 人が誰かは分かりません。「a friend」が誰かを示すために「関係代名詞」を使って誰なのかを「制限（限定）」するので「制限（限定）用法」と言います。

(2)非制限用法

文中の名詞について、関係代名詞を使って何か説明を付け加える用法を「非制限用法（継続用法）」と言います。この場合の先行詞となる名詞は、「特定の人やもの」である場合が多いです。

非制限用法の場合、関係代名詞の前がカンマ(comma)になります。

例文) My friend, who lives in London, has sent me a letter. 「私の友達はロンドンに住んでいるのですが、手紙が届いたところです。」

第13章 関係副詞

文中の名詞を形容詞節で修飾するには、その名詞に代わる副詞と接続詞の働きを兼ねる関係副詞を使います。例文を使って説明します。

「シェークスピアはある町で生まれました。」と「あなたはその町を知っていますか？」という2つの文を1つにまとめようとするとき、関係代名詞を使えば、
Shakespeare was born *in a town*. Do you know *that town*?

→ Do you know the town **in which** Shakespeare was born?

となりますが、この「in which」を関係副詞「where」で置き換えることができます。

→ Do you know the town **where** Shakespeare was born?

ここの「where」は、例えば「Shakespeare was born *there*」の「there」と同じように、場所を表す副詞として使われています。これが関係副詞です。関係代名詞と同じく、「the town」を「先行詞」といい、where 以下の節は the town を修飾している形容詞節になっています。

先行詞	時を表す語	reason(s)	場所を表す語	なし (方法)	全ての代用
関係副詞	when	why	where	how	that

The aim was to find ^{先行詞} the time ^{関係副詞} when modern people began to overeat.

The majority black population had no freedom to live or to go ^{関係副詞} where they wanted to.

先行詞なしで用いられる関係副詞「where」

「where」は先行詞なしで、「～する場所」という意味の名詞節を導くこともできます。

That's ^{関係副詞} why he seized on the Rugby World Cup, which would be held in his own country, as a way of achieving his goal.

文法) that is why ～

「that is the reason why」の先行詞「the reason」が省略された形です。「This/That is why ～」は「こういう／そういう訳で～」という定形表現または熟語と思って下さい。

On the summer solstice, when the day is the longest of the year, ancient people visited Stonehenge.

関係詞の非制限用法

関係副詞の where と when は非制限用法で使うことができます。why と how には非制限用法はありません。

..., when (= and then) 「そしてその時」

..., where (= and there) 「そしてその場所で」

第 14 章 比較

It is the third largest island in the world, and belongs to Malaysia, Indonesia and Brunei.

最上級を使った表現「X 番目に～だ」

「1 番」であることを示すには「最上級」を使いますが、ここで使われているとおり「3 番目に～だ」を表す時には「the third (序数) + 形容詞の最上級 + 単数形の名詞」という表現を使います。

Ever since then, more and more food has been served to Jesus and his followers in paintings.

比較級 and 比較級

比較級を「and」を使って繰り返すと、「ますます～」という意味になります。

第 15 章 仮定法

If you drank out of the wrong water fountain, you might be arrested by the police.

仮定法過去 「もし～なら、…だろうに」

仮定法で過去形を使った場合には、現在の事実と違う事柄を表す時に使います。

仮定法過去の文の形

If + 主語 + 動詞の過去形、主語 + would/could/might + 動詞の原形

If she had told the location of the lists, the Nazis would have found the children and killed them.

仮定法で過去完了を使った場合には、過去の事実と違う事柄を表すときに使います。

仮定法過去完了の文の形

If + 主語 + 動詞の過去完了形、主語 + would/could/might + have + 過去分詞

第 16 章 接続詞

Van Gogh liked the Japanese prints so much that he painted scenes from them.

so ... that～

「so」の直後に形容詞か副詞を置いて「so...that～」とすると、「とても...なので～」という意味や、「～なほど...」という意味を表します。

The painting was done in 1876, so ^{主語 1}you ^{(助動詞) + 動詞 1}can see ^{接続詞}that ^{主語 2}kimonos ^{動詞 2}were already in Europe at that time.

接続詞「that」

「主節 (you can see)」と「従属節 (kimonos were already in Europe at that time)」を結ぶ「接続詞」です。接続詞「that」は省略することもできます。

As you look down on the island from the plane, ^{主語}you ^{動詞}may think ^{目的語}that a great natural forest covers the island.

文法) 接続詞「that」と名詞節を導く縦続接続詞の用法

① think の後ろの「that」は接続詞です。従って訳しません。また省略できます。

② that 以降の従属節が動詞「think」の目的語となっています。

従って文章全体では「主語 -> 動詞 -> 目的語」の「第 3 文型」になっています。

In the middle of the 19th century, some European women wore kimonos at home ^{接続詞}when they wanted to relax.

接続詞「when」「～する時に」という意味です。

Japanese culture affected people in the West ^Anot only because it was exotic, but also ^Bbecause it had a unique sensib.

文法) not only A, but also B

「A だけではなく B も」という意味です。ここでは「A」と「B」には「節」が入っています。

「as well as」を使つてほぼ同じ意味を表すことが出来ませんが、「B as well as A」という語順になり、前の B に重点が置かれます。

On the other hand, stone, which would never decay, stood not only for bones but also^①
for the eternity of ancestors.^②

文法) not only A but also B 「A だけでなく B も」という意味です。また、ここでは
「stand for ～」との関係も確認しましょう。

⇒ 「stand for ～」の「～」には「①, ②」の2つが当てはまります。

⇒ 「not only A but also B」には「A = ①」「B = ②」が当てはまります。

The result is that numerous exhibitions in various countries have focused on his
creations.

S + V(=be 動詞) + C(=that 節)

that 節が文全体の補語の働きをします。接続詞の that なので、省略可能です。

他に次のような表現もあります。

The fact is that 「事実は何ということですか」

The trouble is that 「問題は～ということですか」

The truth is that 「真実は～ということですか」

The reason is that 「理由は～ということですか」

They needed to find a historical topic, conduct research on it and present it in the form of a paper, an exhibit, a performance, or a web site.

文法) and と or

「and」も「or」も複数のものをつなぐ「等位接続詞^{とうい}」です。「等位」とは、「等しい位、同等のもの」という意味です。3つ以上の語句をつなぐ場合は、最後の語句の前だけに「and」か「or」を付けます。「and」か「or」以外は「comma(,)」で区切ります。「and」か「or」の前の comma は省略可能です。

例文) George speaks German, French(,) and English. (ジョージはドイツ語、フランス語そして英語を話します。)

これを踏まえて本文を確認しましょう。

まず、「and」から考えます。ここでは「to 不定詞」を3つつなげています。

They needed to ^①find a historical topic, ^②conduct research on it and ^③present it in the form of a paper, an exhibit, a performance, or a web site.

次に、「or」を考えます。ここでは「単数名詞」を4つつなげています。

They needed to find a historical topic, conduct research on it and present it in the form of a ^①paper, ^②an exhibit, ^③a performance, or ^④a web site.

最初に説明した通り、「and」と「or」は「等位接続詞」です。なので「同等のもの」を探せば、「and」と「or」がそれぞれどの語句と関連しているのか分かります。

第 17 章 句と節

Many European painters, especially the Impressionists, were strongly influenced by ukiyoe prints.

挿入句

「句」とは、2 つ以上の語のまとまりが 1 つの品詞と同じ働きをして、その中に「主語 + 動詞」のないもののことを言います。「主語 + 動詞」があるものを「節」と言います。句と節には、名詞と同じ働きをするもの、形容詞と同じ働きをするもの、副詞と同じ働きをするものがあります。

節は次のように分類されます。

1. 等位節 等位接続詞で結ばれたそれぞれの節
2. 従属節 従属接続詞や関係詞で導かれる節
3. 主節 文の中の従属節以外の部分

第 18 章 話法

話法に関する内容は本テキストにはありませんでしたが、関連する内容を挙げます。

時制の一致

英語は動詞ごとに時を表す

「ぼくはあの子が好きだ」という表現は、次のように「姉は知っている」と結びついても「姉は知っていた」と結びついてもおかしくありません。

「ぼくはあの子が好きだと姉は知っている。」

「ぼくはあの子が好きだと姉は知っていた。」

日本語では「知っている」「知っていた」のように文尾さえ変えれば、それが「今」のことなのか「昔」のことなのかが分かります。逆に言えば、日本語は文が完結するまで「いつ」のことを話題にしているか決められないことになります。それにたいして英語では、日本語のようにどこかでまとめて時を表すということはしません。話している時を基準に、1つ1つの動詞の形を決めていくことになります。「今」のことか「過去」のことか、などを動詞が出てくるたびに何度でもうるさく言うのが英語の約束ごとです。

同じ時点のことを「～する／～した」

(1) I think Jack is tired. (ジャックは疲れていると思う)

(2) I thought Jack was tired. (ジャックは疲れていると思った。)

(1)は「ジャックが疲れている」のも「私が思う」のもどちらも現在のことです。

(2)は過去に視点を置いています。「ジャックが疲れている」のも「私が思った」のも、ともに過去の同じ時点のことです。

過去のことを「～する／～した」

(1) I know they got married. (私は彼らが結婚したことを知っている。)

(2) I knew they had got married. (私は彼らが結婚したことを知っていた。)

(1)では「彼らが結婚した」のは過去のことであり、それを「私が知っている」のは現在のことです。2つの事柄は同時点のことではありません。そのため、「知っている」は現在形(know)、「結婚した」は過去形(got married)になっています。

(2)は過去に視点を置いています。(1)と同様、「彼らが結婚した」と、それを「私が知っていた」とのあいだには時間的なズレがあります。そのため「知っていた」はknewの過去形になっていますが、「結婚した」はknewという過去の時点よりもさらに過去のことを表すので「had got married」という過去完了形(大過去)になっています。

未来のことを「～する／～した」

(1) I think he will be late. (私は彼が遅れるだろうと思う。)

(2) I thought he would be late. (私は彼が遅れるだろうと思った。)

(1)では「彼が遅れるだろう」は未来のことですが、「私が思う」のは現在のことです。

(2)では、過去に視点を置いています。「彼が遅れるだろう」という内容は、「私は思った」という過去の時点から見た未来のことです。「過去の時点」から見た未来は、過去形の助動詞 would で表現できます。will では「今から見た未来」にしかありません。

時制の一致をしなくても良い場合

主節の動詞が過去形でも、従属節の動詞が時制の一致を受けない場合もあります。

(1) We learned that water boils at 100°C. (私たちは水が摂氏 100 度で沸騰すると習った。)

(2) She said that she goes jogging every morning. (彼女は毎朝ジョギングをしていると言った。)

(3) Our teacher said that Mozart was born in 1756. (私たちの先生は、モーツァルトは 1756 年に生まれたと言った。)

(1)は「water boils at 100°C」の部分に注目します。これは過去でも現在でも変わることのない事実です。このような「時間に関係のない事実」は現在形のままにします。

(2)の「goes」は動作動詞の現在形なので、現在繰り返し行われている動作を表していることになります。このように「現在も繰り返し行われている動作」を表す時は現在形のままになります。

※「goes」を「went」にすると、過去の反復動作を表すことになってしまいます。

She said that she went jogging every morning. (彼女は毎朝ジョギングをしていると言った。)[今のことは分からない]

また、現在も変わらない性質や事柄を表す場合にも時制の一致は適用されません。

Jim said that his wife has blue eyes. (ジムは彼の奥さんの目はブルーだと言った。)

(3)では、「先生が言った」時点よりも「モーツァルトが生まれた」時点のほうが時間的に前なので、時制の一致を適用すれば「生まれた」は過去完了形になるはずですが。

しかし 1756 年のことが「先生が言った」時点よりも前であることは疑いがなく、時間的な前後関係があいまいになることはありえません。このように「歴史上の事実」など「過去であることが明らかな事柄」は、過去形のままにします。

第 19 章 名詞、冠詞

The ukiyoe artists' ideas in paintings were different from those in European paintings of that time.

名詞の所有格

名詞の所有格は語尾に「's」をつけます。「-s」で終わる複数形の場合は「'(アポストロフィ)」だけつけます。

The pair of photos No.1 and No.2 is one example.

単数に注意

「pair」は「2 つで 1 組になっているもの」の「1 対、1 組、1 セット」ですので単数扱いになっています。従って be 動詞が「is」となっています。また、be 動詞は「=」です。補語は「one example」ですので、ここからも単数であることが分かります。

The Wansinks suggest that this is a natural result of the increasing supply and safety of food and its decreasing price over the millennium that started in the year 1000 A.D.

固有名詞と冠詞 「The Wansinks」

姓を共有する 1 つの集団（夫婦、家族など）を指す時には、他の集団との区別をつけるために定冠詞（the）を使います。この場合、姓は複数形になります。

The Dresden Elbe Valley is a place of great cultural importance along the Elbe River in Germany.

熟語) of + 抽象名詞 名詞を後ろから修飾したり、be 動詞の後に置かれ補語になり、物事が持つ抽象的特徴を表します。of + 抽象名詞は形容詞で書き換えることができます。

例) of help = helpful, of value = valuable, of use = useful, of interest = interesting

第 20 章 代名詞

Each of them has its own unique culture.

人称代名詞「its」+ own

「its」は「it」の所有格です。

主格	所有格	目的格	所有代名詞	再帰代名詞
it	its	it	-	itself
I	my	me	mine	myself

所有格の代名詞は単独では用いられず、常に名詞の直前に置かれます。

例文) This is my book. -> × This is my.

所有格の代名詞の後ろに形容詞の「own」を入れて、「自分自身の」「～独自（独特）の」という意味を付け加える場合があります。

It was important that they should have common standards for comparing them.

形式主語

本来なら-> They should have common standards for comparing them was important.
 としたいのですが、主語が長くなってしまうので、**主語の位置に It を形式的に主語として置き**、真の主語である不定詞句や that 節を述部の後ろに配置することです。

But he found it very difficult to rebuild his country, because it had been torn apart by the policies of apartheid.

形式目的語

本来なら-> But he found to rebuild his country very difficult. としたいのですが、そうすると「found」と「very difficult」が離れてしまって文の構造が分かりにくくなってしまう。従って、「found」と「very difficult」を近づけるために**目的語の位置に it を形式的に置き**「to rebuild his country」を後ろに配置することです。

It was the development of oilfields that they chose instead.

強調構文

強調したい語句を It is [] that ... の [] の位置に入れて表すことを強調構文といいます。[] に入るには、主語・目的語・補語になっている名詞や代名詞、または副詞の働きをする語句です。次の文の各数字の部分で強調すると、4 種類の文ができます。

^① John ^② saw ^③ a black bear ^④ in the forest yesterday.

① It was John that (who) saw a black bear in the forest yesterday.

② It was a black bear that John saw in the forest yesterday.

③ It was in the forest that John saw a black bear yesterday.

④ It was yesterday that John saw a black bear in the forest.

※強調する語が人の場合には、that の代わりに who を使っても良い。

※接続詞 that は省略される場合がある。

※この問題が入試によく出題される理由は、「強調構文と形式主語の構文を見分けられるか?」ということです。見分け方について説明します。

1. It is [形容詞] that... の形になっている場合

強調構文で形容詞を強調することは出来ないのです、この形になっていれば形式主語です。

例文) It is important that you understand this. (あなたはこのことを理解することが重要です。)

2. It is [副詞 (句・節)] that... の形になっている場合

形式主語の文であれば、It is ... that ~ の ... の部分は be 動詞の補語として働いているはずで、場所や時間、理由などを表す副詞 (句・節) は補語になることはありません。It is [場所・時間・理由などを表す副詞 (句・節)] that ~ という形になっていれば強調構文です。

例文) It is in August that the festival is held. (そのお祭りが開かれるのは 8 月です。)

3. It is [名詞 (句・節)] that... の形になっている場合

強調構文であれば、that 以下の文から強調されている名詞が that の前に移動しているので、that 以下の文は名詞が 1 つ足りない形になっています。

例文) It is this hospital that he visits every Monday.

(彼が毎週月曜日に訪れるのは、この病院です。) ← “visit” の目的語が前に出ている。一方、形式主語の文であれば、that 節が真の主語、すなわち名詞節なので、that 以下は必ず文として完全な形式を備えている。

例文) It is a mystery that the ring disappeared from this safe. (この金庫からその指輪が消えてしまったのは不思議である。)

In Leonardo da Vinci's "The Last Supper," you can see that the pieces of bread on the table are smaller than the people's hands.

漠然と人々を指す「you」

ここで使われている「you」は、具体的な人を指しているのではなく、漠然と「人々」を表しています。日本語は主語が分かる場合に省略しますので、ここではあえて訳す必要はありません。

"Look around you," he told his exhausted teammates.

文法) ^{たんぷくどうけい} 単複同形の you

「you」の単数形と複数形は同じ形なので「あなたは」と「あなたたちは」という意味があります。ここでは複数形の意味で使われています。

※古い英語では「thou(ðəʊ)」が単数形で、「ye(ji), you」が複数形で使われていましたが、紆余曲折を経て今の形の「you」が残りました。

She helped older ones escape through secret openings in the wall.

代名詞「one」「人/人は誰でも」という意味を表します。

「代名詞」ということですので、前に使われていた単語の代わりをするものです。そこで前の文章を見る必要がありますが、まずは「one(s)」がどう使われているのかを再確認すると「older ones」となっています。「older」は「比較級」で、「ones」は複数形です。これと同じような表現がないか前の文章を見て見ましょう。すると「smaller children」があります。つまり「ones」は「children」の代名詞だということが分かります。

第 21 章 形容詞、副詞

Do you know the number of countries in the world?

「the number of A」 と 「a number of A」 の違い

「the number of A」 は 「A の数（総数）」 という意味で、「a number of A」 は 「いくつかの A、多くの A」 という意味になります。「number」 の前が 「the」 か 「a」 によって意味が異なるので注意です。

About seven billion people live on earth.

billion 「10 億」

数の読み方と単位 3 桁ずつ区切っていきます。

6,575,305 = six million, five hundred (and) seventy-five thousand, three hundred (and) five.

$$= 6 \times \text{million} + 575 \times \text{thousand} + 305$$

Each person belongs to a country and a society.

each と every は単数扱い

「each」 は 「それぞれの」 という意味です。従って 「each person」 は 「それぞれの人」となり複数の印象を受けるかもしれませんが、それぞれの人・物、つまり個人、個別のものと捉えるので 「単数扱い」 になります。もし 「each」 が複数扱い (some や many と同じ) だったら、「persons」 となっていなければなりません。また、動詞 「belongs」 の 「s」 は三人称単数現在 (三単現) の 「s」 です。ここでも 「単数扱い」 になっています。また属しているものが 「a country and a society」 となっていることから 「単数扱い」 であるということです。

※everyone(everybody) 「誰でも、すべての人」 も単数扱いです。

例文) Everyone **is** doing their best.

The wood circles were for the living, while Stonehenge was for the dead.

the + 形容詞で 「人・人々」 という意味になります。

例) the old 「老人」、the young 「若者」、the poor 「貧しい人」、the rich 「お金持ちの人」

第 22 章 強調、否定

We cannot do without palm oil even for a day.

二重否定

1 つの文の中で否定を表す語が 2 つ使われることを「二重否定」といいます。「～なしで…することはできない」→「…すれば必ず～する」のように、結果的には肯定の意味を表すことになります。単なる肯定よりも、強い肯定の意味を表す表現です。

No essential difference can be found between clothes in the East and those in the West. Strangely, however, no tools for farming and almost no human remains have been found there.

全否定

主語に no がつくと、主語が否定されるばかりでなく、結果的に文全体の内容が否定されることになります。

"The Last Supper" is regarded as one of his few completed masterpieces.

準否定語

few (little)について

「少ない」を表す形容詞には「few」と「little」があります。「few」は数が少ないことを表し、可算名詞（数えられる名詞）の前に置きます。「little」は量が少ないことを表し、不可算名詞（数えられない名詞）の前に置きます。

「a few」、「a little」のように「a」がつくと否定の意味が消えて、「少しはある」、「少数の」という肯定的な意味になります。

このように、「a」があるとないとでは意味がほぼ反対の意味になってしまいます。注意して下さい。

他の準否定語

① hardly/scarcely 「程度がほとんどない」

(1) I could **hardly** understand what he was saying.

(私は彼の言っていることをほとんど理解できなかった。)

(2) The injured child could **scarcely** walk.

(けがをしたその子供は、ほとんど歩けなかった。)

② rarely/seldom 「頻度がほとんどない」

(1) I **rarely** listen to classical music.

(私はめったにクラシック音楽を聴きません。)

(2) England has **seldom** won the World Cup.

(イングランドがワールドカップで優勝したことはめったにない。)

第 23 章 前置詞

As you can see, their designs have a lot in common.

「as」の使い方

「as」は接続詞として使われたり、前置詞として使われたりして、様々な意味を表します。ここでは「様態」を表しており、「～（する）ように、～（する）とおりに」と訳します。以下に他の代表的な as の使い方をまとめておきます。

接続詞の as

1. 「～する時、～する間、～しながら」「時」を表す。

I saw her as I was getting off the train.

（私が電車から降りる時に、彼女を見ました。）

2. 「～につれて」「比例」を表す。

As time went by, she became more beautiful.

（時が経つにつれて、彼女はあっそう美しくなりました。）

3. 「～（する）ように、～（する）とおりに」「様態」を表す。

Why don't you behave as I've always told you to?

（しなさいっていつも言っているようになぜしないのよ。）

4. 「～なので、～だから」「理由」を表す。

As it was getting late, he decided to go home.

（暗くなってきたので、彼は家に帰ることにしました。）

5. 「～だけれども」「譲歩」を表す。

Angry as she was, she couldn't help smiling.

（彼女は腹を立てていたが、思わず微笑んでしまいました。）

前置詞の as

1. 「～（である）と」＜他動詞＋目的語＋as...＞の形で補語を導く。

Her father regards her as a genius.

（彼女の父は彼女が天才だと思っています。）

2. 「～として」

She works as a translator in Japan.

（彼女は日本で通訳として働いています。）

3. 「～の時に、～のころ」

As a child, he lived in New Zealand.

(子供のころ、彼はニュージーランドに住んでいました。)

This ukiyoe print was on the wall of his workroom.

前置詞「on」

場所に関する「on」は、線や平面との「接触」を表します。「on the wall」は「壁に接触している」という意味で、日本語に訳すと「壁にかかっている」となります。

The woman is dressed in a kimono.

前置詞「in」

「be dressed in A」で「A を身につける、着ている」という意味がありますが、「in」自体に同じような意味もあります。

The demand for it has been increasing because of its convenience and low price.

because of (ぐんぜんちし 群前置詞) と because (接続詞) の違い

「because of」は「群前置詞」です。「群前置詞」とは、2 語以上からなる語群が、1 つの前置詞と同じような働きをするものです。従って「because of」の後ろには「名詞」が置かれます。

「because」は接続詞です。接続詞は文と文をつなげる役割があります。従って「because」の後ろは必ず「主語 + 動詞」が来ます。

It seems that many places in the world are hoping to become World Heritage Sites.

It seems that... (= seems to 不定詞) 「～であるように思える、～のように見える」

「seem to 不定詞」と「It seems that ...」を書き換えることができます。

Many places in the world seem to hope to become World Heritage Sites.

⇕

It seems that many places in the world are hoping to become World Heritage Sites.

※ it seems の用法には以下のようなものがあります。

① that 節の内容が話者に不確かである場合や、確かでも丁寧に言いたい場合。

It seems that they divorced last month. (彼らは先月離婚したようですよ。)

② it seems ..., but ... 「...と思われるが(実際は異なる)」という譲歩を表す場合がある。

It seems that the figures are falling; however, if we look into the details, we can see that net profits are improving.

(数値が減少しているように思える。しかし詳細を見ると、純利益は改善していることが分かる。) -> seems は譲歩を表している。

③ It would seem の方が It seems より丁寧な表現。

④ 文中や文末に置くことができる。

This, it seems (to me), is your object in going to school.

(これが君の通学の目的らしいね。)

第 24 章 発音とアクセント

honor 「尊敬、敬意、名誉」 ※発音注意 「先頭の "h" は発音しません。これを黙字^{もくじ} (silent letter) と言います。よって不定冠詞は "an" を用い、定冠詞 "the" は /ði/ と発音します。

Water is one of the most important resources in our lives.

life 「生活、暮らし」 -> lives (複数形) ※発音注意 /laɪvz/ ライブズ

In some countries, however, people can only use dirty water every day.

dirty 「汚い、不潔な」 ※スペルに注意 dirty /dɜːrti/ = girl /gɜːrl/ と同じスペルと発音

But his mother said to him, "Ryan, 70 dollars is not a lot of money. If you're really serious about getting the money, you can do extra work around the house."

serious 「本気の、熱心な」 ※発音注意 「シアリアス」 /sɪəriəs/

As you look down on the island from the plane, you may think that a great natural forest covers the island.

island 「島」 ※発音注意 「アイランド」 /aˈɪlənd/ (語頭 is-の s は黙字。)

When you come down closer, however, you see that there is something strange about it:

closer 「近い」 ※発音注意 /kloʊs/ 「クロウサー」 「s」 は濁りません。「o」 は二重母音です。

They have made farms and plantations for palm oil.

palm 「ヤシ」 ※発音注意 「パーム」 /pɑːlm, pɑːm | pɑːm/

「手のひら」という意味もあります。palm reading 「手相占い」

The bridges are made of used fire hoses which were sent from Japan.

hose 「ホース」 ※発音注意 /hoʊz/ (ホウズ) 「s」 は濁ります。「o」 は二重母音です。

The result is that numerous exhibitions in various countries have focused on his creations.

various 「様々な、色々な」 ※発音注意 /veˈəriəs/ 「ベアリアス」

In Miyake's view, clothing was first made from one piece of cloth in all countries; for example, the toga of ancient Rome and the sari of India.

ancient 「古代の、昔の」 ※発音注意 /éɪn(jə)nt/ (エインシャント) 「a」は二重母音です。

Rome 「ローマ」 ※発音注意 /roʊm/ 「ロウム」 「o」は二重母音です。

In April 2009, U.S. President Obama made an important speech in Prague and promised to work for a peaceful and secure world without nuclear weapons.

Prague 「プラハ」 ※発音注意 /praːg/ (プラーグ) ※チェコ共和国の首都

※世界の都市名の英語の発音例

Moscow 「モスクワ」 ロシアの首都 /mə(ː)skaʊ/ (マスカウ、モスコウ)

Vienna 「ウィーン」 オーストリアの首都 /viénə/ (ヴィエナ)

Berlin 「ベルリン」 ドイツの首都 /bəːrlɪn/ (バーリン)

Munich 「ミュンヘン」 ドイツの都市 /mjúːnɪk/ (ミューニック)

Zurich 「チューリッヒ」 スイスの都市 /zʊərɪk/ (ズーリック)

Geneva 「ジュネーブ」 スイスの都市 /dʒəníːvə/ (ジュニーバ)

Jerusalem 「エルサレム」 イスラエルの首都 /dʒərəúːs(ə)ləm/ (ジュルーサレム)

Warsaw 「ワルシャワ」 ポーランドの首都 /wɔːrsɔː/ (ウォーソオー)

Her courage, however, was recognized by Israel in 1965.

Israel 「イスラエル」 ※発音注意 /ízriəl -reɪ(ə)l/ 「イズリアル」

When he was only seven years old, the first atomic bomb was dropped on Hiroshima and he experienced the "flash of light."

bomb 「爆弾」 ※発音注意 bɑː(ː)m | bɒm (バム／ボム) 「b」は黙字。

He designed the two bridges with "life and death" as their theme.

theme 「テーマ、主題」 ※発音注意 θiːm (シーム)

Dr. Pearson thinks this is because those houses were lived in only at certain periods of the year.

certain 「ある、例の、あの」 ※発音注意 「サートウン」 /səːrt(ə)n/ (-tain は /t(ə)n/)

period 「時期、期間」 ※発音注意 「ピアリアッド」 /píəriəd/

Most of the stones making up Stonehenge weigh as much as four tons each.

weigh 「重さがある」 ※発音注意 /weɪ/ (-gh は発音しない黙字; way と同音)

They are called "the wood circles" because they were made up of wood columns.

column 「柱、円柱」 ※発音注意 「カラム」 kɑ(:)ləm | kɔl-/ (語末-mn の n は発音しない)

Growing up in South Africa under apartheid meant that this and worse things were part of daily life.

mean – meant – meant ※過去形・過去分詞形の発音注意 /ment/ 「メント」

Nelson Mandela fought against such injustice as a leader of the anti-apartheid movement.

anti- 「反、非、対、抗、不」 ※発音注意 「アンチ、アンタイ」 /ænti, (《米》) æntaɪ/

The Shiretoko Peninsula, the Shirakami Mountains, shrines and temples in Nikko, Himeji Castle, the Atomic Bomb Dome in Hiroshima, Yakushima Island in Kyushu.

castle 「城、城郭」 ※発音注意 /kæs(ə)l | ká:s(ə)l/ (-tle の t は黙字)

The Arabian oryx had lived in desert and grassland areas of the Arabian Peninsula.

desert 「砂漠」 /dezərt/ (強勢は第 1 音節)

※dessert 「デザート」 /dɪzə:rt/ (-ss-は /z/ ; 強勢は第 2 音節)

One Polish woman found it impossible to turn her eyes away from this horrible reality.

Polish 「ポーランドの、ポーランド人の、ポーランド語の」

Polish /póʊlɪʃ/ (ポウリッシュ) 「o」は二重母音

polish /pá(:)lɪʃ | pɔl-/ (ポリッシュ、パリッシュ) 「o」は単母音

He said to his seven-year-old daughter, "If you see someone drowning, you must try to rescue them,

drown 「溺れる」 (1215) ※発音注意 /draʊn/ 「ドラウン」

Outside the ghetto, Irena gave the children false name and left them in Polish homes or orphanages.

false 「間違った、偽った」 (488) ※発音注意 /fɔ:ls/ 「フォールス」

Then she put the lists into glass jars and buried them under an apple tree in a friend's backyard.

bury 「埋める」 (827) ※発音注意 /béri/ 「ベリー」

She was awarded the Yad Vashem medal, which is given to brave non-Jewish people who helped Jewish people at the risk of losing their own lives.

award 「授与する、賞を与える」 (518) ※発音注意 /əwɔ:rd/ 「アウオード」

medal 「勲章」 ※発音注意 /méd(ə)l / 「メドゥー」

参考

species 「種」 ※^{たんぷくどうけい}単複同形 他に means 「手段」、carp 「鯉」、sheep 「羊」、deer 「鹿」、yen 「円」 等があります。

Miyake became a designer perhaps because he had experienced those two things.

perhaps 「ひょっとすると、おそらく、もしかすると」

「たぶん、おそらく」等を意味する単語それぞれの確信度（目安）

probably - 80～90%

maybe - 50%

perhaps - 30～40%

possibly - 10～30%

But this study shows that it has been a general tendency for at least the last millennium.

millennium 「1,000 年間」

※英語の年を表す単語「decade（10 年間）」、「century（100 年間）」

Malaysia and Indonesia produce about 90 percent of the world's total palm oil supply.

percent 「パーセント」 ※複数形で使いません。

The Wansinks suggest that this is a natural result of the increasing supply and safety of food and its decreasing price over the millennium that started in the year 1000 A.D.

A.D. 「西暦～年、紀元後」 ※Anno Domini（ラテン語）= in the year of our Lord

B.C. 「紀元前」 ※before Christ

Stonehenge is connected to the River Avon by an approach called an "avenue."

approach 「入り口、進入路」

※動詞で「～に近づく」という意味ですが、前置詞は伴いません。以下を参照して下さい。

例) 「私はドアに近づいています。」 ○ I am approaching the door.

× I am approaching to the door.

The sanctuary was reduced to only about one-tenth of its former size, and UNESCO canceled its approval of the oryx sanctuary as a World Heritage Site.

分数の読み方

分子は基数詞、分母は序数詞で読みます。分子が 2 以上の場合は、分母の序数詞に複数の-s をつけます。

one-tenth $\frac{1}{10}$, three-fifths $\frac{3}{5}$, two and three-sevenths $2\frac{3}{7}$

ただし、 $\frac{1}{2}$ は a (one) half、 $\frac{1}{4}$ は a(one) quarter と読む。 $\frac{3}{4}$ は three quarters と読む。

The valley extends for some 20 kilometers and passes through the city of Dresden.
some 「およそ、約」 ※数字の前で使われると「about」と同じ意味になります。

He said to his seven-year-old daughter, "If you see someone drowning, you must try to rescue them, even if you cannot swim."

複合名詞「数詞 + 名詞」

「数詞 + 名詞」が他の名詞について修飾する時には、数詞につく名詞は単数形にする。

例) a ten-dollar bill (10 ドル紙幣) a five-story building (5 階建ての建物)